

# 過疎高齢集落住民のモビリティ確保に 向けた取り組み

～福井市高須町における自治会輸送活動モデル事業～



川本 義海  
辻 佑介  
吉川 貴大  
中山 衛

福井大学大学院工学研究科  
大津市建設部道路管理課  
福井市都市戦略部交通政策室 19  
福井県総合政策部交通まちづくり課

10年8月、乗り合いワゴン車を走らせるモデル事業が始まった。県の補助を受け市が10人乗りのワゴン車を購入し、高須町自治会に無償貸与。住民の要望を踏まえて福井温泉病院やすかつとランド九頭竜、鷹巣公民館を巡るルートを設定し、週3日、午前と午後に行っている。

午前7時すぎ、福井市高須町の集落内を乗り合いワゴン車が走る。地域の交通手段を地元自治会が支え合いで補う全国で珍しい取り組みだ。ハンドルを握るのは地元ボランティア「じつも、ありがたみ」のやね。待合所に着くと、片手

利用者はガソリン代の自己負担分として、1回2000円の利用券を購入する。運転手は地元の男性3人が交代で務め、自治会費から年間10万円が謝礼などに充てられる。自治会長の高山庄治さん(62)は「小さな集落だから助け合いが大切」と話す。専門農家の小林重雄さん(63)は「過疎化する地域に何か協力したい」と運転手に志願した。担当の木曜は通院での利用が多い。前日までに予約のあった住民を把握し、できるだけ自宅近くまで迎えに行くようにしている。

リウマチのリハビリで病院に通う畑なみ(こ)さん(83)には、暮らして欠かせぬ「足」となった。夫は市内の特養ホームに入所し、一人暮らし。以前は坂井市に住むおおいに送迎を頼むか、近所の人に謝礼を支払って同乗させてもらっていた。「毎回人に頼まなあかんかったけど、これで気兼ねなく病院に行けるようになった」

## 過疎化集落で 高齢者の足に

# 福井市高須町自治会 乗り合いワゴン車

国の権限や財源を大胆に地方に移し、地域の自主性を高めようとする地方分権改革は、法制度や予算化など制度づくりへ正念場の年を迎えた。一方、分権の受け皿となる地方の現場で、地域を支えていくのは「住民力」だ。高齢者を住民のネットワークで支えたり、NPOが障害を持つ人の働く場をつくり農業振興に役立てる…。他県では議会と住民の対話で民意を反映させる仕組みをつくる動きもある。地域が直面する課題を住民自らが解決に乗り出し、新しい公共の担い手として地域の未来を切り開こうとする県内、全国の取り組みを追った。

# 未来切り開け



利用者はガソリン代の自己負担分として、1回2000円の利用券を購入する。運転手は地元の男性3人が交代で務め、自治会費から年間10万円が謝礼などに充てられる。自治会長の高山庄治さん(62)は「小さな集落だから助け合いが大切」と話す。専門農家の小林重雄さん(63)は「過疎化する地域に何か協力したい」と運転手に志願した。担当の木曜は通院での利用が多い。前日までに予約のあった住民を把握し、できるだけ自宅近くまで迎えに行くようにしている。


県内全域で高齢化が進み「行政が住民の移動手段に配慮する必要性は増していく」と県交通まちづくり課はみる。11年度以降はモデル事業を他地域にも広げたい考え。デマンドバスや乗り合いタクシーなどさまざまな形態を組み合わせて、地域交通をカバーする取り組みを後押しする方針だ。

ワゴン車を走らせるのは、福井市高須町の集落内を走る。地域の交通手段を地元自治会が支え合いで補う全国で珍しい取り組みだ。ハンドルを握るのは地元ボランティア「じつも、ありがたみ」のやね。待合所に着くと、片手

通院のため自治会が運行する乗り合いワゴン車に乗り込むお年寄り。車内では乗客と運転手の会話も盛ん。10年11月、福井市高須町

## 背景・目的

---

- ✓ 人口減少と過疎高齢化が進む「過疎高齢集落」において、マイカーや運転免許を持たない高齢者はもちろん、**高齢ドライバーの負荷も今後大きくなりつつあり、モビリティの低下および持続性が危ぶまれる。**
- ✓ **既存の地域交通サービス（路線バス、乗合タクシーなど）を享受できない（いまだにできていない）集落は各地に点在している。**  

- ✓ 従来の公共交通の概念を超えた真に**利用者本位で住民主体の地区交通サービス（有償・無償）**の取り組みが徐々に広がりつつある（本発表の高須町もその一つ）。
- ✓ このような集落住民自身による**モビリティ確保（共助型地域交通サービス）**の取り組みについて、運行開始から約1年経過した高須町の実績と今後の課題をまとめる。

## 高須町における自治会輸送モデルの目的

---

中山間地域にあって高齢化の進行が著しく、公共交通空白地域である高須町において、地域住民による助け合いを前提とした新たな輸送活動の取組みをモデル事業として支援し、その活動成果を検証・評価のうえ、中山間地域・高齢化集落の生活交通を補完する新たな仕組みを確立する。

【事業期間は最低5年間。その後については現時点では未定】

## 事業概要

---

- ▶ 市がワゴン車(定員10名)を購入し、高須町自治会に無償で貸与する。
- ▶ 自治会は、輸送活動に必要な運営組織を設置し、運転手の確保、運行時間や運行経路の設定等を行い、高齢者(自治会会員)の日常生活に必要な輸送活動を実施する。
- ▶ 利用者はガソリン代のみ負担。輸送活動に必要な経費(運転者への謝礼など)は、基本的に自治会費から支出する。

行政は車両の貸与、経費面の補助および計画・輸送活動の状況把握とアドバイス、大学(川本研究室)は住民の行動実態調査、他事例の情報提供および活動に対するアドバイス、自治会は車両の運行・管理と報告を担う。

# 事業のイメージ

## 福井市

### ・車両の所有者

- …任意保険の加入
- 定期点検の実施
- 運行状況を定期的に把握
- 他、車両の所有者として実施すべきこと(大規模な修理等)

任意保険料、公課費、  
点検・修繕料の予算化

### ・事業の管理者

- …輸送活動状況の把握  
(福井県に報告必要)

### 車両の無償貸付

(使用貸借契約の締結)

### 運行状況の報告

(運行日報・月報による)

- ・走行距離
- ・運行前点検等の記録
- ・給油量
- ・小規模修繕記録

### 目的外使用の許可等

(書面による)

### 活動状況の報告

(活動状況報告書による)

- ・輸送回数、輸送人員
- ・収支状況

登録

管  
指  
導

報  
告

車両の状態  
輸送人員  
(利用券の回収)

## 運 転 手

(要件)

- ・原則、自治会の会員
- ・2種免許保有者  
又は国土交通大臣認定講習修了者

## 高須町自治会

### 高須町自治会輸送活動運営協議会

#### ◎主な業務内容

- ・運行管理…予約の取りまとめ、運転手の割振り等
- ・運営管理…利用券の発行、利用者数や収支状況の把握
- ・車両管理…日常的な点検、燃料補給、消耗品の交換 等

#### 【構成員】

- ・会長、副会長、監事、町内会の役員、各種団体の代表

#### 【計画・規約等】

- ・輸送活動計画
- ・運営協議会規約
- ・運行管理マニュアル  
…運行管理責任者、整備管理者、連絡体制等を定める

#### 【会計】

- ・輸送活動特別会計(町内会の会計とは別に設ける)

特別会計から謝礼を支出  
することは不可

## 謝 礼

(自治会の会計から支出)

# 対象集落の概要



福井県福井市高須町	
人口	94人 (106人)
世帯数	49世帯 (48世帯)
65歳以上人口	53人 (56人)
高齢化率	51% (53%)
運転する人	52人 (55%)
運転しない人	42人 (45%)

※右カッコ内はH23.1.1現在

高須町まで福井市  
中心部から約20km

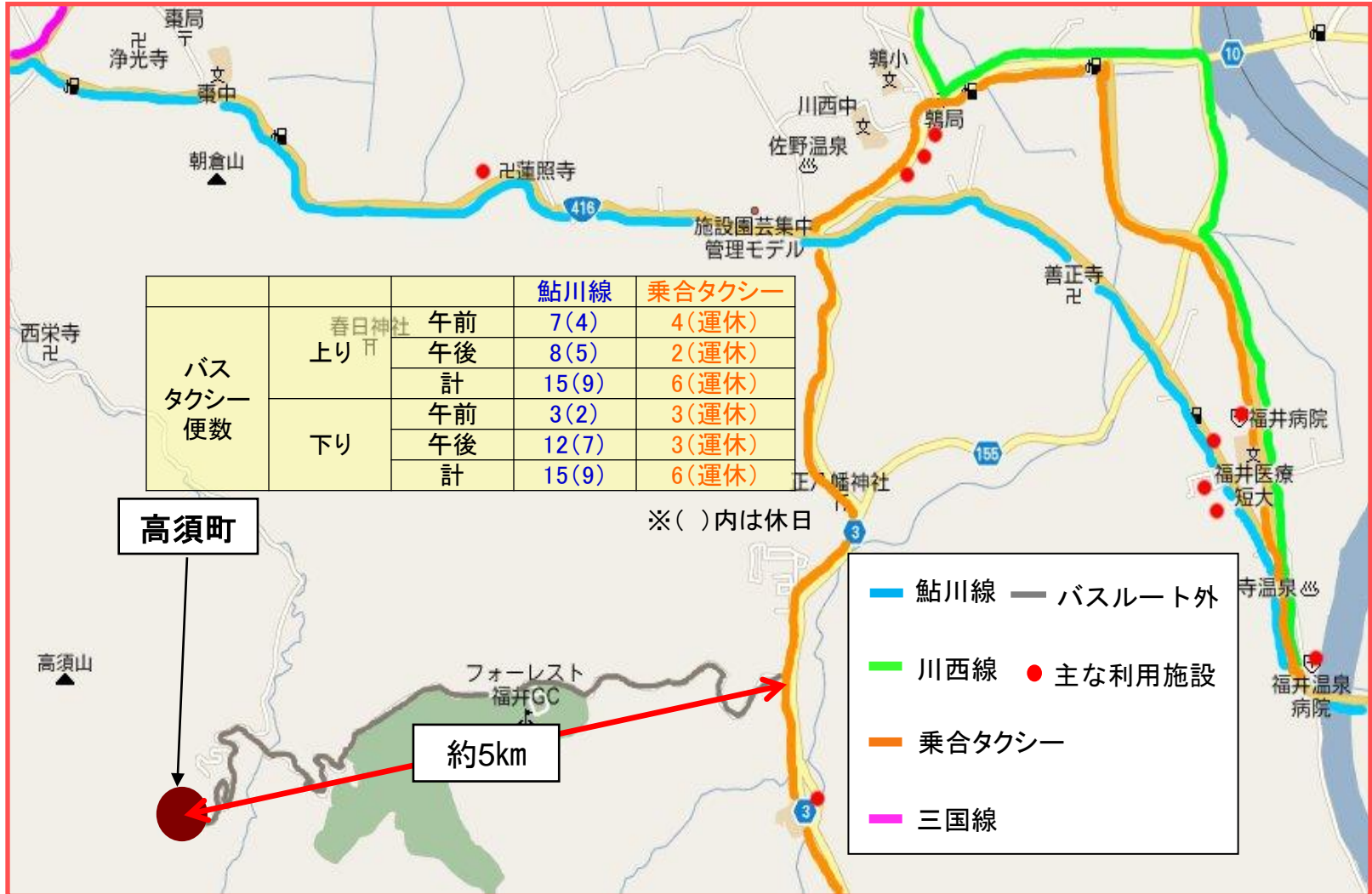
福井市の中山間地  
域モデル集落に選  
定（棚田オーナー  
(H16～) など）







# 対象集落の交通環境



# 集落住民調査の概要（運行開始前）

ヒアリング調査	
調査対象地区	福井県福井市高須町
調査対象	高須町自治会役員5名
調査年月	平成21年10月2日 平成21年11月20日

アンケート調査および活動日誌調査	
調査対象	高須町に住む 中学生以上全員
調査月日	平成21年12月
調査方法	直接配布（直接回収）



運転の有無	配布	回収	回収率
運転する人	52通	39通	75%
運転しない人	42通	22通	52%
計	94通	61通	64%

## 集落住民調査の結果

- ✓ 乗合バスや乗り合いタクシーを希望
- ✓ 一人暮らしの人は買い物を人に頼む
- ✓ 集落住民は家族・兄弟のような存在
- ✓ 病院へは毎日でも行きたい
- ✓ 買い物は若い人に頼んでいるが口に合わないことも多い
- ✓ 共稼ぎが多く若い人がいないので送迎を頼むことは難しい



**【ルート】** 買い物、通院のための交通手段が必要。これら両方の用途を兼ねた乗合に見合ったルートの考慮が重要。

**【運行ダイヤ】** 週2～3回の移動の確保が必要。住民のニーズに合った運行曜日、時間の考慮が重要。

## 通院

## 買い物

運転する人 (N=36)

運転しない人 (N=22)

運転する人 (N=36)

運転しない人 (N=22)

主な目的地 (N=22)

- ①市内の病院 (10人)
- ②福井総合病院 (5人)
- ③藤田医院 (4人)

主な目的地 (N=16)

- ①福井総合病院 (6人)
- ②藤田医院 (2人)
- ③福井温泉病院 (2人)

主な目的地 (N=30)

- ①ハニー七瀬川店 (9人)
- ②市内その他 (8人)
- ③組合マーケット (6人)

主な目的地 (N=11)

- ①ハニー七瀬川店 (4人)
- ②組合マーケット (3人)
- ③ゲンキー川西店 (2人)

移動頻度 (N=32)

- ①月に数回 (12人)
- ②していない (11人)

移動頻度 (N=18)

- ①月に数回 (9人)
- ②週に1回 (6人)

移動頻度 (N=27)

- ①週2~3回 (13人)
- ②週1回 (11人)

移動頻度 (N=14)

- ①家族にしてもらう (12人)
- ②週に1回 (2人)

主な移動手段

- ①自分の運転 (19人)

主な移動手段 (N=14)

- ①家族の送迎 (N=12)

主な移動手段 (N=28)

- ①自分の運転 (26人)

主な移動手段

- ①家族の送迎

主な移動曜日 (N=29)

- ①決まっていない (9人)
- ②木曜 (8人)

主な移動曜日 (N=11)

- ①木曜 (3人)
- ①月曜 (3人)

主な移動曜日 (N=28)

- ①決まっていない (19人)
- ②土曜 (6人)
- ③火曜 (5人)

主な移動曜日

- ①土曜

主な移動時間帯 (N=18)

- ①午前9時までに (11人)
- ②決まっていない (9人)

主な移動時間帯 (N=13)

- ①午前9時までに (7人)
- ②決まっていない (3人)

主な移動時間帯 (N=25)

- ①決まっていない (15人)

主な移動時間帯

- ①運転手に合わせる

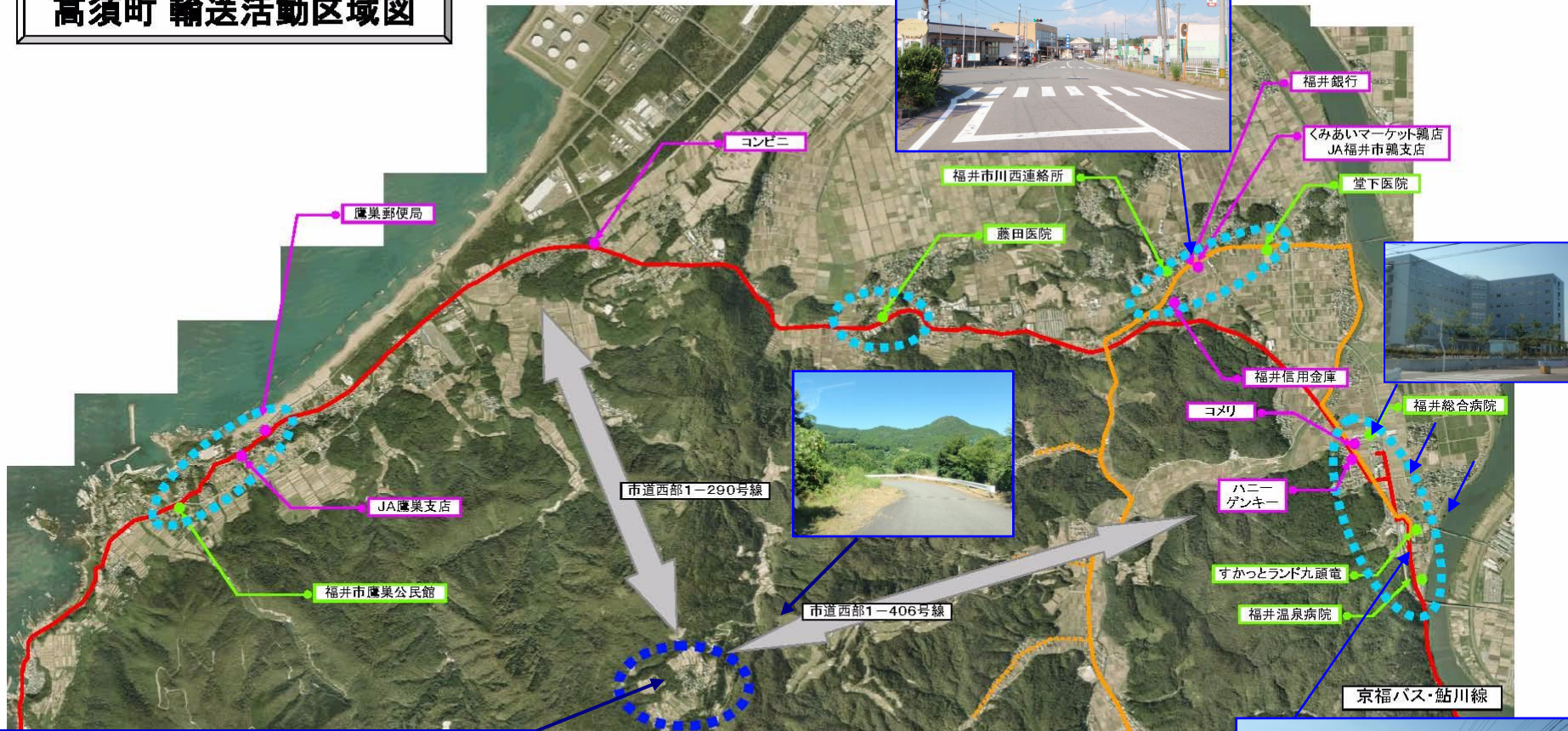
福井市仙町付近と福井市上野町付近と同一地区に目的地が集中

通院は木曜、買い物は土曜に需要が多い

通院は午前9時までの移動が多く、買い物は時間に融通がきく

通院と買い物の両方の用途を兼ねた乗合に可能性あり！

# 高須町 輸送活動区域図



**高須町**  
 人口: 107人 世帯数48世帯  
 高齢化率: 53.3%

乗合タクシー・本郷ルート





上野町付近



福井総合病院



仙町付近



福井温泉病院

# 輸送活動の具体案



## 運行開始までの準備状況（概要）

- ✓ 福井県の「集落輸送活動支援モデル事業」の補助を受け、福井市が「自治会等輸送活動支援モデル事業」として、2010年8月から福井市高須町にて県内発の輸送活動を開始。
- ✓ 運行ルートおよび運行ダイヤは住民アンケート調査結果から把握したニーズにほぼ沿った形で開始することにし、運行後、状況に応じて随時変更を予定。（当初の運行曜日は月・木・土の週3日。運行時間は午前7時および午後3時高須町発の2往復。車両は10人乗りワンボックス。ドライバーは集落住民）
- ✓ 運行形態、管理運営については先行事例（島根県飯南町）にほぼ倣った形。なお福井県内の他地区、他集落での具体的な検討は見られない。
- ✓ 上記の他に県実施の「集落移動販売システム整備モデル事業（2年間）」も同年7月から開始され、高須町は移動販売車が巡回する県内11集落の一つにもなっている。
- ✓ 懸念される課題、問題点（利用実績、利便性、事故などへの対応など）について今後継続して検討の予定。





出発式 (2010/8/9) 会場の高須城小学校



運行車両



自治会長への報道陣インタビュー



出発式に集まった地区住民



車両の安全運行祈願御被い



車両キーの受け渡し



運転者への花束贈呈



車両に乗り込む関係者



車両に乗り込む住民



集まった住民へのお神酒の振る舞い



地元テレビ局の取材を請ける住民



車両の出発を見送る住民

# 公共交通空白地帯に車貸与

## 高須(福)で事業始動

自治会が運行

路線バスが通らない「足」として運行する  
集落に行政が車両を貸与し、地元自治会がその車を使って、住民の

中山間地域や高齢化  
集落の「公共交通空白地帯」で、県の補助を受けて各市町が取り組

### 乗り合いワゴン発車



### お年寄り「助かる」

高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車に乗り込めば、お年寄りが気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

(左上) 朝日新聞 2010. 8. 20

(中上) 福井新聞 2010. 8. 10

(左下) 福井新聞 2010. 8. 8

(右下) 県民福井 2010. 8. 10



高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

「町は高齢化が進んでいて、この事業を高齢者の足として、町内の活性化を目的とする。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

# 県・市が生活支援へ

交通の不便な集落で急速に進む高齢化や過疎に対応しようと、県や福井市が買い物や交通など生活手段の確保に力を入れている。65歳以上の高齢者が半数を超える集落は県内に107あり、うち93が便の悪い中山間地域。近くにはお年寄りバス停があるが、買い物難民対策が急務とされるなか、県内でも珍しい試みが西部の山間地で行われている。

## 自治会 乗り合いワゴン

高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

## 移動販売車が巡回

交通手段への援助だけでなく、支援も始まっている。先月20日から、同市高須町を含む国見岳周辺の高齢化が進んだ17集落で、移動販売車が週に1度の巡回を始めた。



運営用ワゴン車から住民らに輸送用ミニバスを貸与する高須町自治会。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

## 「買い物難民」対策

高齢者の足確保へ 乗り合い車 自治会運行

## 高齢者の足確保へ 乗り合い車 自治会運行

高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

## 県、福井市モデル事業 あす高須町で始動

高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。高須町自治会が運行する乗り合いワゴン車は、高齢者が気軽に利用できる。

# 過疎の中山間地 福井・高須地区

# 県・市が生活支援へ

現在

交通の不便な集落で急速に進む著しい高齢化や過疎に対応しようと、県や福井市が買い物や交通など生活手段の確保に力を入れている。65歳以上の高齢者が半数を超える集落は県内に107あり、うち93が便の悪い中山間地域。近くに店はおろかバス停すらなく、「買い物難民」対策が急務とされるなか、県内でも珍しい試みが市西部の中山間地で始まった。（西山明宏）

福井市高須町。同市の中心部から約20<sup>分</sup>、標高約2000<sup>メートル</sup>の山間部にある集落には、107人が暮らし、65歳以上の高齢者は57人と半数を超える。最も近い公共交通機関が乗り合いタクシーで、その停留所まで約5<sup>分</sup>。公共交通機関の空白地域だ。集落に住む農業高橋みどりさん(78)は夫と2人暮らし。集落の外に出るときは、離れて暮らす子どもが送り迎える。「子どもが忙しくて都合が悪いと、病院にもいけない」と漏らす。

## 自治会 乗り合いワゴン

福井市高須町。同市の中心部から約20<sup>分</sup>、標高約2000<sup>メートル</sup>の山間部にある集落には、107人が暮らし、65歳以上の高齢者は57人と半数を超える。最も近い公共交通機関が乗り合いタクシーで、その停留所まで約5<sup>分</sup>。公共交通機関の空白地域だ。集落に住む農業高橋みどりさん(78)は夫と2人暮らし。集落の外に出るときは、離れて暮らす子どもが送り迎える。「子どもが忙しくて都合が悪いと、病院にもいけない」と漏らす。

乗りの合いタクシーに補助金を出して運行してもらう方法はコストがかさむことから、自治会の自主性と助け合いを重視した。高須町の自治会が同市の募集に手を挙げ、県内初の事業として実現した。

週3回、午前7時と午後3時に集落を出発。福井温泉病院やすかつとランド九頭竜などを回り、集落に戻る。前日に自治会長に予約を入れ、乗車時に2000円の券を1枚渡すと利用できるという。効率の向上を目指し、予約がない



自治会によって運営される輸送用ワゴン車に乗り込む住民ら一福井市高須町

## 移動販売車が巡回

他の支援

日は運行しない。運転手はボランティアが基本だが、自治会から謝礼を渡すという。今年9日に開かれた出発式で、集まった30人ほどの住民に白いワゴン車がお披露目され、早速住民が乗り込んだ。自治会長の高山庄治さん(62)は「非常にありがたい。このバスを集落の足としてしっかり運営していきたい」と期待を込めた。

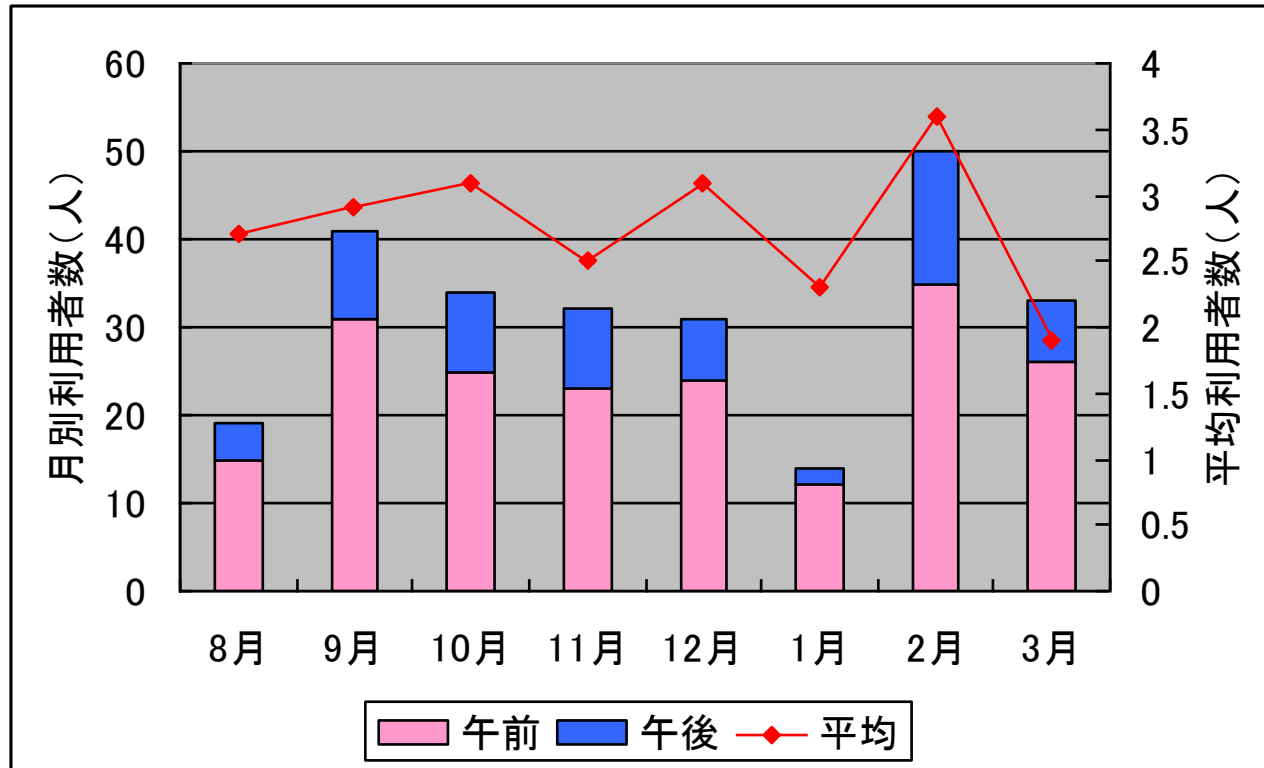
交通手段への援助だけでなく、いわゆる「買い物難民」への支援も始まっている。先月20日から、同市高須町を含む国見岳周辺の高齢化が進んだ17集落で、移動販売車が週に1度の巡回を始めた。いずれも山間部の集落で、スーパーへ車で20分以上かかる。県から車両と人件費の補助を受けた県民生協(福井市)が、食品などを中心に販売している。県ふるさと地域振興課によると、住民からの人気は上々という。

ただ、いずれも期間が2、5年と限定されたモデル事業で、終了後の事業の継続などは決まっていない。ワゴン車の運行は運転手の多くが高齢者であることや、そもそも利用者などがどれだけ確保できるかなどが課題となる。県交通まちづくり課の山内利芳課長は「複数の集落でモデル事業を成功させ、結果が出せれば」と話している。

今後

「買い物難民」対策

# 利用状況

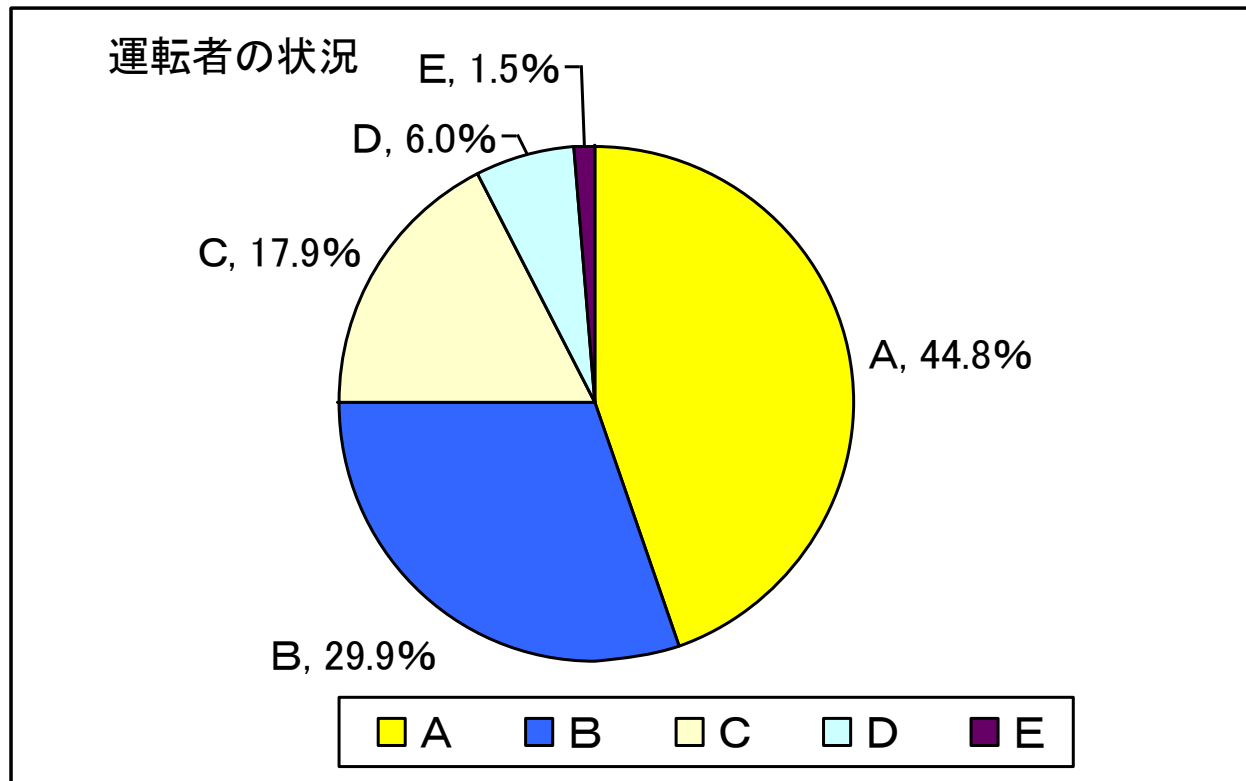


- 延べ利用者のうち75%が午前中に利用。
- 運行1回あたりの平均乗車人数は運行開始当初は増加していたが最近は減少傾向。(※平成23年度の実績 → 4月:2.1人、5月:1.6人)
- 昨年度利用券を購入した人は13人で高須町に住む高齢者数(53人)の25%

## 運行実績（平成22年度）

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	摘要
運行 設定日		6日	13日	13日	13日	13日	14日	12日	13日	97日	月・木・土
運行日		4日	8日	8日	8日	8日	5日	8日	12日	61日	設定日外 も含む
運行回数		7回	14回	11回	13回	10回	6回	14回	17回	92回	
利用者数	午前	15人	31人	25人	23人	24人	12人	35人	26人	191人	
	午後	4人	10人	9人	9人	7人	2人	15人	7人	63人	
	計	19人	41人	34人	32人	31人	14人	50人	33人	254人	
1回あたり 乗車人数		2.7人	2.9人	3.1人	2.5人	3.1人	2.3人	3.6人	1.9人	2.8人	
走行距離		164 km	349 km	210 km	233 km	216 km	108 km	304 km	314 km	1,898 km	

# 運転者と利用者の目的



- 昨年度、運行を行った運転手は計5人。そのうち2人が全体の約75%を運行。
- 利用目的は「福井温泉病院への通院」が圧倒的に多いが、2月以降、ハニーへの買物利用やすかつとランドへの娯楽利用等、通院以外の利用もいくらか見られるようになった。



## これまでの評価と今後の課題（取り組み）

---

- 利用者からは大変好評であり今のところとくに問題はない。また他地域からの視察もあり注目されている（自治会の刺激に）。
- 事前のニーズ把握調査をもとに立案した計画がほぼそのまま利用されている（当初の運行計画内容から乖離なく運行中）。
- ✓ 乗り合わせの工夫によるさらなる効率的な運行（平均乗車人員アップ。現在は2～3名/回）。
- ✓ 利用の多様化（通院のみならず買い物や娯楽への利用拡大も）。
- ✓ 運行ルートへの延伸（低頻度でよいのでさらに便利（病院）に）。
- ✓ 利用者の拡大（まだ利用していない人の潜在的ニーズを把握しあらたな利用の喚起および促進）。
- ✓ 持続的な運行のために必要な条件の整理およびそれらの条件を満たすための具体的方策の検討（運転者の確保と負担の分散化、資金の自己調達と補助からの自立、評価の視点の再考 ほか）。

## 非都市部（中山間地）での高齢者MMの視点

- ✓ 公共交通空白の場合が多く、結果としてマイカーに依存し続けざるを得ない環境をいかに改善するか。
- ✓ マイカー運転、マイカーに同乗では得難い車内における住民同士のおしゃべりから広がるコミュニティの持続。
- ✓ モビリティは与えられるだけのものではなく自ら確保するものであり、またできるという意識と実践へ。
- ✓ ニーズは都市のそれとは必ずしも同一に非ず。その地区ならではの暮らし方（ライフスタイル）に立脚したモビリティの評価が不可欠。
- ✓ 高齢者のモビリティだけに注目するのではなく、非高齢者も含めた地区トータルで考える（近くに住む家族やご近所さんなど）への依存度の高さを考慮に）。



ご清聴ありがとうございました



県民生協 中山間11集落巡回

# 移動販売 住民に好評

高齢化が進む中山間地域に食料品や日用品を販売に出向く、県の集落移動販売システム整備モデル事業が20日、福井市国見岳周辺の集落で始まった。実施事業者の県民生協（本部福井市開発町、藤川武夫理事長）は移動店舗車を巡回させ、地域住民に商品を販売した。

## 総菜や菓子類売れ筋

同事業は、安心して暮らせる環境づくりのため、県が指定する地域において新たに移動販売を行う事業者を車両整備や人件費の面で支援。本年度から2年間実施する。初日は約500品目を乗せた移動店舗車「ハーツ便」が11集落7カ所の集落センターや公民館などを訪れ、1カ所30分～1時間かけて販売を行った。近くのスーパーまで車で20分以上かかるという高須町では、停留所とし



所狭しと商品が並べられた移動店舗「ハーツ便」車内で買い物をする住民  
 20日、福井市高須町

鳴らしながら到着すると、町民約15人が次々と集まり、車内で目当ての商品を買い求めた。別居する家族に週に1度買い物をお願いしていると、同町の湯口道子さん（80）は「自分では自由な買い物に行けないので来てくれるのとても助かる。昼食のおかずにした」と刺し身や果物などの生鮮食品やかまぼこなどの加工食品を購入していた。

県民生協によると、売れ筋は総菜や刺し身、菓子類などで、少人数向け

に少量をバックしたものが人気という。

今後の運行については、ふるさと地域振興課は「品ぞろえや時間帯など意見を参考にしながら運行ルートを検討し、住民の不便を解消していきたい」と話している。当面は、県民生協が所有する8台の移動店舗車のうち1台が、国見岳周辺の14集落に最低週1回訪れる予定。



加藤吉平商店の  
 梵・吉平が金賞

日本酒コンテスト

日本酒コンテスト「第4回インターナショナル・サケ・チャレンジ」がこのほど行われ、加藤吉平商店（本社鯖江市吉江町）の「梵・吉平」が真賞を受賞した。